



一般社団法人
タウンスペース WAKWAK
2021年度 事業報告

すべての人に居場所と出番がある社会、すべての人がSOSを発信でき、互いに支え・支えられる社会、新しい公共としての住民主体による「自立」「参加」「協働」による地域の再生と互いに絆を結び合えるつながりの地域社会をめざして以下のとおり事業を行いました。

2021年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、全国において社会的不利を抱える子どもたちや家庭により一層の不利がかかっている社会状況を受け、これまでの富田地区を対象とした事業から支援対象範囲を市域全域に広げかつ基幹業務を担う法人スタッフの新規採用等による事務局体制を強化するなど事業拡大に伴う組織の改編を同時に行いました。具体的な事業として認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ休眠預金通常枠事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり（全国）」および高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（厚労省支援対象児童等見守り強化事業）を受託し、前者の事業として高槻市市民公益活動サポートセンターと協働し市域で活動する子ども支援団体をはじめ多様なNPOや学校、大学、企業、医療関係、宗教関係等の分野包括的なネットワーク（地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク）を構築（参画団体64団体、116名〈5月2日時点〉）、後者の事業においては高槻市からの委託事業として242件（対応総数268件）にアウトリーチを実施しました。

I. 法人運営事業

1) 会員拡大

各種事業の場や広報活動を通じ、本法人の目的に賛同しともに活動を進めようとする正会員および賛助会員について以下の通りの会員数となりました。

	会員数	口数	前年度会員数	口数
正会員（団体）	1	5	1	5
〃（個人）	16	19	16	19

賛助会員(団体)	6	7	2	2
” (個人)	89	362	80	341
合計	112名	374口	99名	367口

2) 理事会、社員総会および企画運営スタッフ会議の開催

①理事会の開催

日時	場所	議案
第1回理事会 5月26日(水)	対面(コミュニティスペースNikoNiko)およびオンライン(ZOOM)のハイブリッド形式	(報告案件) 第1号議案 2020年度事業報告承認について 第2号議案 2020年度決算報告について 第3号議案 業務執行理事の役員報酬について 第4号議案 市域広域事業へのエントリーについて
第2回理事会 10月21日(木)	対面(コミュニティスペースNikoNiko)およびオンライン(ZOOM)のハイブリッド形式	<報告案件> 第1号議案 2021年度上半期事業中間報告について 第2号議案 2021年度上半期中間決算報告について 第3号議案 法人スタッフの新規雇用の報告について <議決案件> 第1号議案 2021年度下半期事業予定について 第2号議案 法人スタッフの新規雇用の承認について
第3回理事会 3月28日(月)	対面(コミュニティスペースNikoNiko)およびオンライン(ZOOM)のハイブリッド形式	<報告案件> 第1号議案 2022年度事業計画案について 第2号議案 2022年度予算案について

	イブリッド形式	<議決案件> 第1号議案 業務執行理事の役員報酬改定案について 第2号議案 パート職員の待遇改善について 第3号議案 決算理事会・社員総会の日程について
--	---------	---

②社員総会の開催

日時	場所	議案
第1回 社員総会 5月26日（水）	対面（コミュニティスペースNikoNiko）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	（報告案件） 第1号議案 2020年度事業報告承認について （議決案件） 第1号議案 2020年度決算報告について 第2号議案 業務執行理事の役員報酬について 第3号議案 市域広域事業へのエントリーについて
第2回 社員総会 3月23日（火）	対面（コミュニティスペースNikoNiko）およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式	第1号議案 2022年度事業計画案について 第2号議案 2022年度予算案について 第3号議案 業務執行理事の役員報酬改定案について 第4号議案 決算理事会・社員総会の日程について

③企画運営スタッフ会議の開催

2021年度は理事・社員・運営スタッフ含め25名のメンバーでスタッフ会議を計3回、対面およびオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式で開催しました。

① 5月26日 ②10月21日 ③3月23日

3) 情報発信活動

①情報誌「WAKWAK通信」の発行

情報誌「WAKWAK通信」を計4回（第27号・28号・29号・30号）発行しました。

	内容	発行部数
27号	<p>(5月号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラウドファンディング目標達成！ ・多様な人が「つながる・つつみこむ・出会う」空間を高槻富田地区に創る ・支援金の使いみち ・地域と学校の協働ーコミュニティ・スペースの名前・看板作成 ・事業の様子を報告書にまとめました。 ・子どもの未来応援国民運動（内閣府ほか）のパンフレットに掲載 	各1500部
28号	<p>(10月号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政府（内閣府）広報において放映決定 ・政府広報番組「子どもたちの未来のために - 地域に根ざす支援の現場 - 」 ・タレントつるの剛士さんによる取材の様子 ・内閣府「子供・若者白書」にご掲載いただきました。 ・コミュニティ再生プロジェクト2年目が始動 ・全国の支援のフロントランナーを目指す ・居場所の包括連携による全国のモデル地域づくり <ul style="list-style-type: none"> ・高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業を実施 ・居場所の包括連携によるモデル地域づくり（全国） ・「Takatsuki Art Challenge展」@安満遺跡公園 	各1500部

	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティスペースNiko Niko本格始動 ・多セクターとの共創の活動に対し大阪大学大学院「独創的教育研究活動賞」を受賞 	
29号	<p>(1月号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国の支援のフロントランナーをめざす ・政府広報番組「子どもたちの未来のために - 地域に根ざす支援の現場 - 」 ・居場所の包括連携によるモデル地域づくり ・「地域から広がる第三の居場所講演会・シンポジウム」を開催 ・市域第三の居場所アクションネットワークの発足 ・居場所の包括連携によるモデル地域づくりを通してめざすもの（ロジックモデル） ・ボーダレスアート展オンライン開催 ・関西大学紀要論文執筆 	各1500部
30号	<p>(3月号)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク本格始動 ・地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク開催の様子 ・会の方向性と機能 ・市域フードパントリーサテライトを実施 ・高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業無事に終了 ・学識者（第三者）事業評価を実施 ・国会議員によるオンライン視察・事業プレゼン ・書籍『子どもと家庭を包み込む地域づくり - 教育と福祉のホリスティックな支援 - 』発刊 	

②インターネットを活用した発信

「タウンスペースWAKWAK」HP (URL: <http://wak2.jimdo.com>) や「タウンスペースWAKWAK」Facebook ページの更新にも努め、日々の活動を常に発信するなど広く情報発信に努めました。

4) メディア・新聞記事等への出演・掲載等

①政府広報【子どもたちの未来のために～地域に根ざす支援の現場～】

○テレビ朝日（地上波） 2021年9月18日(土) 午前11時～放送

B S 朝日 9月19日(日) 午後1時～放送

○テレビ朝日のホームページ (https://www.tv-asahi.co.jp/kodomo_mirai/)

○内容：新型コロナ禍における子どもの居場所づくりについて多セクターの包括支援の視点から取材

○番組 HP より：コロナ禍で孤立が進む今。子どもたちの暮らしと学びを支える草の根活動が全国に広がっているといます。そこで、つるの剛士がその支援の現場を訪ねます。東京都豊島区『いけいけ子ども食堂』の活動と人々の想いを取材。また、板橋区『地域リビング プラスワン』で行われているのは、『おうちごはん』という取り組み。さらに「学び」に対する活動について探るため、大阪府高槻市富田町の『コミュニティースペース NikoNiko』へ。子どもたちを支える活動を通し、日本の未来を見つめます。

○依頼元：内閣府

②NHK E テレバリバラ「水平社100年」

○「バリバラ」水平社宣言100年(1)「人間は尊敬すべきものだ」

・第1回：3月3日(木)午後8:00 ※再放送 6日(日)午前0時(土曜深夜)

○「バリバラ」水平社宣言100年(2)「人の世に熱あれ 人間に光あれ」

・第2回：3月10日(木)午後8:00 放送予定 ※再放送 13日(日)午前0時(土曜深夜)

○番組公式ホームページ (<https://www.nhk.jp/p/baribara/ts/8Q416M6Q79/episode/te/KNX4361X2K/>)

○内容：部落問題を中心にした取材。部落問題をはじめ様々な社会課題（社会的孤立）などをどうまちづくりにより超えていくのかを出演の際に語っている。

○番組 HP より：「過酷な部落差別があたりまえだった100年前に誕生した水平社宣言。人間は同情や哀れみの対象ではなく、尊敬すべき存在だと訴えた宣言の理念は、いまでも輝きを失っていない。番組では水平社誕生の歴史を通して、宣言の意義を考える。スタジオには被差別部落出身者など当事者が大集合。当事者が声をあげる意義・支えることの大切さ、「自分を好きになること」など、理不尽な壁にぶつかっているすべての人たちに熱と光を届ける！

○依頼元：NHK 大阪放送局

③内閣府令和3年度『子ども・若者白書』掲載

新型コロナ禍における子どもの居場所づくりの取り組みについて、内閣府令和3年度『子ども・若者白書』へ掲載されました。

5) 経営・財務管理

持続的な活動を担保していくための経営計画と適切な財務管理を行うと共に、社会貢献事業を安定的に支えていくため、富田地区の視察の受け入れや講師派遣を積極的に行い、また、チャリティグッズを導入するなど事業収入の増加を図りました。今期も新型コロナウイルス感染拡大の影響下、法人の社会貢献事業を支える収益事業の柱の一つである講師派遣・視察受け入れが減少し法人の財政面においてダメージがありました。

一方で新型コロナ禍に支援対象範囲を広げ行った市域広域事業に対する休眠預金事業や高槻市の委託事業の決定や関係のみなさまからご支援や応援（会費・寄付金の増加）をいただきました。

○2012年度決算（法人設立時） 7,973,202円

○2016年度決算 7,250,007円

○2017年度決算	13,870,719円
○2018年度決算	17,202,945円
○2019年度決算	15,116,794円
○2020年度決算（前年度）	23,966,484円
○2021年度決算（今年度）	28,628,989円（純利益4,427,549円）

6) マイナンバー法施行にともなう個人情報管理

2016年1月から実施されたマイナンバー制度に伴い、法人が取り扱う特定個人情報の範囲、安全管理措置について法人基本方針ならびに取扱い規定を定め、特定個人情報の取得・利用・保管等について厳正な事務に努めました。

7) 各種規程の制定について

休眠預金を活用した事業の採択に伴い、休眠預金等活用法指定団体である一般財団法人「日本民間公益活動連携機構（JANPIA）」の定める各種規程を制定（2020年3月理事会・社員総会議決）し法人ホームページに掲載するなど、情報公開を図るとともに透明性の確保に努めました。

（以下、整備している規程類）

- ・社員総会運営規程・理事会構成規程・理事会運営規程・役員報酬および費用規程・特定個人情報保護規程
- ・情報公開規程・文書管理規程・経理規程・倫理規定・コンプライアンス規程・リスク管理規程・公益通報者保護に関する規程・内部通報規程・理事の職務権限規程・監事監査規程・利益相反防止のための自己申告等に関する規程・事務局規程

8) 寄付金の状況

・事業指定寄付 法人管理事業・学習支援事業・子どもたちの夕刻を支える場・スタディツアー等に計 1,363,291 円の事業指定寄付を頂きました。

・インターネット寄付 日本財団が運営するクレジットカード決済のインターネットサービスである CANPAN サービスを通じ、計 269,579 円（手数料差引後）のご寄付を頂きました。

II. 調査研究事業

実践を通じて得られた知見を他地域（全国）の課題解決に広く活かすべく書籍の刊行や論文執筆・投稿等を通じて発信しました。

1) 書籍の刊行

	書籍名	出版社	著者	論文・研究活動名
1	『子どもと家庭を包み込む地域づくり』	晃洋書房	編著 谷川孝至・岩槻知也 著者 幸重忠孝・村井拓哉・鈴木友一郎・岡本工介	・内容：当法人の子どもの居場所づくり事業について執筆 ・詳細：すべての子どもと家庭にウェルビーイングをもたらす地域づくり ボランティア組織，社会福祉協議会，こども食堂，学校，児童相談所，地方自治体，国……様々な機関が連携して住民が主役となる地域づくりのモデルを紹介し，展望する。

2) 研究・論文等に対する受賞

当法人における多セクターとの協働による実践について昨年度に引き続き今年度も大阪大学国際共創大学院より独創的教育研究活動賞を受賞しました。

	受賞名	機関	論文・研究活動名
1	大阪大学国際共創大学院 「独創的教育研究活動賞」	大阪大学	「多セクターの共創による社会的不利を抱える家庭の要支援状況の可視化によるソーシャルアクション - 大阪府高槻市における多文化共生コミュニティづくりにおける実践と研究の往還 - 」

3) 論文の執筆

①関西大学人権問題研究室

当法人事務局長が委嘱研究員として所属する関西大学人権問題研究室の紀要論文において昨年度の大阪北部地震後のコミュニティ再生事業について投稿しました。

	投稿誌名	発行	内容
1	「関西大学人権問題研究室」 紀要 82 号	関西大学人権問題研究室	『多セクターとの共創による包摂型地域コミュニティ生成：高槻市富田地区大阪北部地震後のコミュニティ再生の取り組み (1)』
2	「関西大学人権問題研究室」 紀要 83 号	関西大学人権問題研究室	『多セクターとの共創による包摂型地域コミュニティ生成：高槻市富田地区大阪北部地震後のコミュニティ再生の取り組み (2)』

②大阪大学等との共同研究

当法人事務局長が博士前期課程大学院として所属する大阪大学人間科学研究科の研究および大阪大学大学院「独創的教育研究活動」の一環として当法人の市域広域事業の実践をまとめました。

	投稿誌名	内容
1	「新型コロナ禍、支援対象児童等の見守り」	市域広域事業「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」

	構築に向けたアクションリサーチ」	の実践について新型コロナ禍、全国で支援の必要性が高まっている背景を踏まえ実践報告論文としてまとめました。
2	「居場所の包括連携による全国モデルづくりに向けたアクションリサーチ」	市域広域事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり」の実践について「社会運動性」にふれながら実践報告論文としてまとめました。

4) 共同研究・研究会・科研プロジェクト等への参加

①大阪大学との共創知を生み出す取り組み

富田地区および市域広域の実践および研究を深めるべく 2019 年に OOS 協定を締結した大阪大学とコミュニティ再生事業や市域広域事業等に取り組み、その実践を報告書にまとめるなど共同研究を行いました。

※OOS（大阪大学オムニサイト）とは：「共創知」を生み出す場をテーマに産官社学連携により、共生社会を創造していくための新たな仕組のこと。

ア. コミュニティ再生事業・市域広域事業の協働実践

大阪大学より 3 人の学識者（志水宏吉先生ほか）とそれぞれの学識者のゼミに所属する大学生および院生とともにプロジェクトの協働実践を行いました。

イ. 事業評価やアニュアルレポートへの執筆

休眠預金事業による事業評価のため大阪大学より 2 人の学識者および関西大学、平安女学院大学からも学識者を迎え事業評価会を開催したほか、評価についてアニュアルレポートへ執筆いただきました。

②子ども若者研究子ども・若者の「居場所」づくり研究への参画

・研究代表者 大阪大学教授 高田一宏

・趣旨 子ども・若者の「居場所」づくり・学習支援・「子ども食堂」などのフィールド調査を通じて、貧困や

社会的排除に直面する子ども・若者への支援を持続的に行う政策・実践の課題をあきらかにする。

・プロジェクト期間：3年間

・日時：4月10日（土）・6月12日（土）・3月5日（土）

③ソーシャルワークと教育研究会

・趣旨：ソーシャルワークの必要性が謳われる中、持続的な子ども・若者支援システムの構築にむけた政策的・実践的示唆を明らかにし、教育・福祉連携の理論構築を図り、各地の取り組みを活性化することを目的に開催。

・主催：一般社団法人部落解放・人権研究所

・内容：市域広域事業の取り組み（報告者：一般社団法人タウンスペース WAKWAK 事務局長 岡本 工介）

・日時：3月5日（土）13時～15時半

・形式：オンライン（ZOOM）開催

④その他

富田地区、市域工機事業の研究を深めるべく大阪大学や近隣の大学の研究者や大学院生を富田地区の学校等へつなぐとともに協働実践・研究を行いました。

Ⅲ. 協働交流事業

1) 市域全域包摂のネットワーク構築事業の新設

これまで当法人では富田地区（四中校区）を対象に「ただいま～と言える子どもの居場所づくり」事業を立ち上げ、地域、学校、行政、企業、大学との連携のもと社会的不利を抱える子どもをはじめ校区に住む誰もが参加できる居場所づくりと家庭の包括支援を目指してきました。

これらの実績を踏まえ富田地区が長年培ってきた社会的不利を抱える子どもたちや住民の支援のノウハウを市域全域へと広げ市域に民と民、官と民の連携による包摂のネットワークを構築することに着手しはじめました。

① 高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業（厚労省事業 支援対象児童等見守り強化事業）

高槻市が「支援対象児童等見守り強化事業」（厚労省）として行った「高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業」を受託し以下の事業を行いました。

ア. 業務の概要や実施体制

- ・業務内容：未就園児等（保育所等に通っていない原則3歳児から就学前の子ども）のいる家庭等を訪問し状況の把握や学習及び生活支援等を通じた子どもの見守りを実施する。
- ・実施期間：7月1日から2022年1月31日まで
- ・実施体制：事業管理者・訪問員として専門職（保育士、社会福祉士等）を配置
- ・担い手の発掘と育成：実施にあたり長年市立の保育所に従事してきた所長や副所長経験者などのベテラン保育士や市の社会教育委員、市民活動を担ってきたメンバー9名をメンターとして迎え、市内全域から子育て層（保育士等）30名の人材を発掘し総勢40名でアウトリーチ（家庭訪問）を実施しました。
- ・訪問件数：242件（対応総数268件）

イ. 訪問員研修の実施

日付	研修名	参加人数
①6月28日(月)	従事者の顔合わせ・事業概要の共有 講師：タウンスペース WAKWAK 事務局長 岡本工介	32名
②7月5日(月)	「高槻市の子育て支援施策」 講師：高槻市子育て総合支援センター主査 木村恵美子さん、藤原聡子さん	26名
③7月5日(月)	「訪問の際に大切なこと」 講師：元高槻市立保育所所長 甲斐田美智子さん	31名
④7月12日(月)	「傾聴について(講義)」 講師：郡家地域包括支援センター職員(社会福祉士) 徳留規子さん	29名
⑤7月12日(月)	「傾聴について(実践)」 講師：郡家地域包括支援センター職員(社会福祉士) 徳留規子さん	28名
⑥7月19日(月)	「子ども理解・親理解」 講師：常磐会短期大学教員・元高槻市子育て総合支援センター副主幹 田村みどりさん	28名
⑦7月19日(月)	「虐待の理解」 講師：淀川区子育て支援室 北川幾子さん	29名
⑧8月27日(金)	「訪問員実務者研修」①(実務・守秘義務・個人情報保護・マニュアルの共有、シミュレーション) 講師：タウンスペース WAKWAK 事務局長 岡本工介	30名
⑨9月2日(木)	「訪問員実務者研修」②(訪問時、対応事例の検討)	28名

	講師：元高槻市立保育所所長 甲斐田美智子さんほか	
⑩9月30日(木)	「訪問員実務者研修」③(ケースの共有及び対応方法) 講師：元高槻市子育て総合支援センター副主幹田村みどりさんほか	26名
⑪11月18日(木)	「訪問員実務者研修」④(ケースの共有及び対応方法) 講師：元高槻市立保育所所長 甲斐田美智子さんほか	19名
⑫1月13日(木)	「訪問員実務者研修」⑤(事業総括) 講師：タウンスペース WAKWAK 事務局長 岡本工介	24名

※新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点からの研修は対面およびオンライン(ZOOM)形式で行ったほか、欠席者については動画配信にて研修内容の共有を行いました。

※なお、参加人数は当日の参加者の人数であり、動画配信は含んでいません。

② 休眠預金通常枠事業「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)」

認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえが資金分配団体として行う「居場所の包括連携によるモデル地域づくり(全国)」の財源をもとに高槻市域に地域の居場所の民・民連携、行政との官・民連携による包摂のネットワークを構築するため以下の事業を実施しました。

ア. 事業の概要

・事業概要：高槻市の市域全域を対象とした「つながる・食べる・学ぶ・生活を支える」をキーワードにした①第三の居場所のネットワーキング、②フードパントリー、③学習支援、④大学、元保育所OG等と連携した専門職・担い手の育成と高槻市が今年度から実施する「子どもみまもり・つながり訪問事業(支援対象児童等見守り強化事業)」を並行して実施することで高槻市域に民と民、官と民の連携による面(セーフティネット)を構築する。また、実践を通して得られた知見を大学等との協働の中で「共創知」としてまとめ日本全国に発

信する。これら多セクターとの共創により社会システム全体の変容（広域包摂的なみまもり・つながり構築）を生み出す。

・実施期間：2021年6月から2024年3月まで

イ. 地域から広がる第三の居場所講演会の開催およびネットワーク準備会発足

・日時：2021年10月30日（土）13時～14時45分

① 講演会：13時～14時

講師：湯浅誠さん（全国子ども食堂支援センター・むすびえ理事長）

② 高槻市内子ども食堂団体シンポジウム：14時～14時45分

・対象：子ども食堂・第3の居場所などに興味がある方

・定員：対面とオンライン（Youtube 限定配信）の併用で実施。

・参加者数：152名

・共催：一般社団法人タウンスペース WAKWAK・高槻市市民公益活動サポートセンター

※講演会では、市長及び市議会議員、市議会議員を来賓としてお招きし制度の必要性について理解促進を図りました。

※講演会後に、「地域から広がる第三の居場所ネットワーク準備会」を開催し52名の参加がありました。

ウ. 地域から広がる第三の居場所アクションネットワークの発足

11月20日（土）にアクションネットワークを発足、回を重ねながら名称や方向性等を決め、年度内に4回会を開催しました。当初の予想20団体を大きく上回る58団体、110名の参画（2022年3月31日時点）を得ることができました。また、分野も地域の諸団体や支援団体をはじめ学校、大学、企業、宗教関係、医療関係に至るまで分野を超えた包括的なネットワークを築くことができました。

i. (アクションネットワーク参加者の内訳)

※2022年3月31日時点

セクター分類	団体数(団体)	参加人数(名)
市民活動団体	38	76
企業	3	6
大学・学校	6	12
宗教関係	3	3
医療関係	1	2
個人	7	11
合計	58 団体	110 名

ii. ネットワークの趣旨、機能、方向性等

名称:「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」	
趣旨	高槻市内において子ども分野をはじめ多様な活動を行う団体、企業、大学、学校、行政、個人等の関係者が一同に会し、顔を合わせ、情報交流をする中でゆるやかなネットワークを築く。
会の3つの機能	①ネットワーク間の顔がつながる ②情報交流と助け合い ③支援構築に向けたアクション
会の方向性	①「民」(民間)だからできるアクションを進めながら将来的には「官庁」(行政ほか)とも協働する。 ②コロナ禍、緊急性の高い社会的不利層への支援からはじめ様々な層へ広げる。 ③子ども分野からはじめ障がい、高齢、外国人支援分野等へ広げる。(包括的な支援)

具体的な動き	①団体さん同士それぞれの動き ヒト・モノの交流や協働等 ②事務局主導の動き
--------	--

iii. 会議の開催

「地域から広がる第三の居場所アクションネットワーク」	
ネットワーク正式発足	
日時	11月20日（土）13時半～15時
場所	高槻市現代劇場 206号室
形式	対面及びオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・参加団体自己紹介 ・この会で大切にしたいこと・体制 ・情報交流
参加者数	39名
第2回ネットワーク会議	
日時	12月18日（土）10時～12時
場所	現代劇場 206号室
形式	対面及びオンライン（ZOOM）のハイブリッド形式
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・参加団体交流会 ・支援構築のための情報交流&助け合い ・団体それぞれの動き ・事務局主導の動き（フードパントリーサテライト構想）

	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の開催方法について ・メーリングリストの開設 ・ズーム・メーリングリスト使い方講座実施について
参加者数	36名
第3回ネットワーク会議	
日時	1月18日(火) 10時~12時
形式	<p>オンライン (ZOOM) 開催</p> <p>対面サテライト会場：コミュニティスペース NikoNiko・協働プラザ・平安女学院大学</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックイン・新メンバー紹介 ・支援構築のための情報交流&助け合い ・会の名称、趣旨、方向性等の再確認 ・団体それぞれの動き ・事務局主導の動き (フードパントリーサテライトの企画背景および実際の支援の様子)
参加者数	37名
第4回ネットワーク会議	
日時	3月12日(土) 10時~12時
形式	<p>オンライン (ZOOM) 開催</p> <p>対面サテライト会場 (NikoNiko、平安女学院大学、協働プラザ、西法寺)</p>
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・チェックイン・新メンバー紹介 ・支援構築のための情報交流・助け合い ・今年度事業の動きと今後について

	・今後の方向性についての意見交流（グループワーク）
参加者数	42名

iv. 社会的インパクトの集計 ※2022年3月31日時点

食の動き（フードパントリー）	2,858個（472.26kg）
物資の動き	6
人の動き	2
新たな社会資源創設（子ども食堂開設等）	4
講演・広報活動（他団体イベント、議員等事業説明）	2

エ. フードパントリーサテライトの実施

食の支援については当初2か年目の構想であったが、新型コロナ禍において社会的不利を抱える層により不利がかかり食の支援の必要性が増大していることから富田エリアを含む市内の3か所（公営住宅を含む困窮層が多いエリアにおいて先行実施）においてフードパントリーサテライトを構築し各地域の民生委員やNPOの代表等およびネットワークでつながった団体とコラボし支援の食支援を行いました。

i. フードパントリーサテライト（高槻つばめ学習会）

- ・日時：2022年1月29日（土）より毎月開催（3回開催）
- ・実施主体：高槻つばめ学習会・グーグー藤カレー・天然酵母パンなかむら・タウンスペース WAKWAK
- ・配布数：27食/回

ii. フードパントリーサテライト（七中校区）

- ・日時：2022年1月26日（水）より毎週開催（9回開催）
- ・実施主体：キヨサキあーちゃん食堂×のりまきのすけ・味源・タウンスペース WAKWAK
- ・配布数：60食/回
- ・NPO 法人高槻ライフケア協会よりお米や食材の寄贈なども受け実施。

iii. フードパントリーサテライト（十中校区）

桜台小学校区で活動を行うしらかわ・いもとクリニックなどと2022年度の新規拠点づくりに向けて協議を行いました。

オ. 子育て層対人援助職の担い手研修の実施

高槻市子どもみまもりつながり訪問事業の完了後も担い手を継続して育成するため以下の通り研修を実施し、地域支援に携わる人材の継続育成を図りました。

日付	研修名	参加人数
① 2月3日（木）	「課題を抱える訪問家庭のケース共有と対応方法」 講師：元高槻市立保育所所長 甲斐田美智子さん・同元副所長 磯部恵子さんほか	16名
② 2月14日（月）	「厳しい家庭状況を抱える子ども達」 講師：淡路寺子屋主宰 大賀喜子さん	14名
③ 2月28日（月）	「子どもの権利ワークショップからみえてくるもの」 講師：NPO 法人 CAP みしま・大阪 中村美紀子さん、大栗真知子さん	15名

④ 3月8日(火)	「子どもセンターぬっくの活動からみえてきたもの」 講師：NPO 法人子どもセンターぬっく理事長 森本志磨子さん	16名
-----------	--	-----

カ. 学識者等事業評価の実施

学識者として関わる大学の研究者による事業評価会議を以下のとおり実施し事業の評価及び社会的意義について検討、その結果を実践報告やアニュアルレポートとしてまとめ高槻市に提出、協議を行った。なお、高槻市において支援対象児童等見守り強化事業について次年度継続および対象年齢を拡大し実施することが決まり当事業がめざした要支援状況の可視化による制度の継続及び拡充の一つが実現化されました。

- ・日時：1月24日(月) 18時半～20時半
- ・形式：オンライン (ZOOM)
- ・メンバー：
 - ・研究者：志水宏吉さん(大阪大学教授)、高田一宏さん(大阪大学教授)、若槻健さん(関西大学教授)、内田龍史さん(関西大学教授) 新谷龍太郎さん(平安女学院大学准教授)、相楽典子さん(平安女学院大学准教授)
 - ・WAKWAK 事務局

キ. アニュアルレポートの作成

居場所の包括連携によるモデル地域づくりの初年度の実践についてアニュアルレポートを作成しました。

- 1部：タウンスペース WAKWAK の紹介
- 2部：居場所の包括連携によるモデル地域づくりおよび子どもみまもり・つながり訪問事業の様子
- 3部：理論編 大学研究者による当事業の社会的意義について・実践報告論文
- 部数：1500部

2)ネットワーク構築、他団体との協働

WAKWAKが実施する各事業において、地域社会とのネットワーク構築、市民活動団体相互および市民・事業者・行政との連携、協働促進事業について以下のとおり実施しました。

① さにすぽ夏祭り（新型コロナウイルスの感染拡大による影響によりミニ夏祭りとして開催）

日時：7月17日(土) 午前10時～午後3時

場所：知的障がい者福祉事業所サニースポット

② 富田富寿栄盆踊り大会（新型コロナウイルスの感染拡大による影響により中止）

③NPO協働フェスタ（新型コロナウイルスの感染拡大による影響により中止）

④フェスタ・ヒューマンライツ（オンライン開催）

日時：12月5日（日） 10時～

講演会：『生き生きと活動できる新しい福祉のまちづくり』

講師：社会福祉法人つながり職員ほか

⑤その他

ア. 富田まち・くらしづくりネットワークおよび富田地域包括支援センター/コミュニテイケア会議、富田富寿栄住宅建替研究会、富寿栄連合自治会諸活動への参加を通して、地域福祉やまちづくり運動への参加と連携を図りました。

イ. 市民公益活動サポートセンターの諸活動への参加を通して、市内NPO団体等との連携を図りました。

IV.新たな福祉と人権・協働のまちづくり事業

1) 地域福祉グランドデザインづくり事業

①未来にわたり住み続けたいまち高槻富田地区コミュニティ再生事業

・趣旨：高槻市による市営住宅の建て替えをはじめ「富田地区まちづくり基本構想」の流れに並行して、2019年に

当法人として未来にわたり住み続けたいまち高槻富田地区コミュニティ再生事業を立ち上げました。

2019年度はフェーズ1「市営住宅の建て替えに多様な層の声を届ける」事業を実施し、2021年度は引き続き

フェーズ2「長期的なコミュニティの再生」を目的に地域・家庭・学校・行政・大学・企業等多セクター

との共創の仕組みとして「富田地区インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクト」を立ち上げ、プロジェ

クト1「コミュニティ・スペースの創出」とプロジェクト2「教育コミュニティづくり」の2つのプロジェ

クトに取り組みました。高槻市の施策においては、2021年度末をめどに公共施設再配置等を柱とする「富田

地区まちづくり基本構想」策定と2022年度からの富寿栄住宅建替事業第一期工事の本格着工に至りました。

ア. コミュニティ・スペースの整備と具体的運用

2020年度から2021年度にかけ、多様な人が「つながる・つつみこむ・出会う」空間を高槻富田地区に創

ることをコンセプトに休眠預金およびクラウドファンディングの実施により古民家を改装し、2021年5月

より本格的に運用を開始しました。

i. 学習支援わんぴーす：従来、公的機関である富田ふれあい文化センターを会場に行ってきた学習支援

わんぴーすが新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言を受け閉館となり、同会場で実施できな

くなりました。しかしながら、自前の居場所ができたことによりコミュニティ・スペースにおいて学習支

援を継続することが可能となり支援を必要とする子どもたちの学びの定着へとつながりました。

ii. 市域広域事業のボランティア育成拠点：高槻市子どもみまもり・つながり訪問事業の研修および事業実施のためのボランティアの拠点として稼働しました。

iii. 社会課題と出会う場（視察の受け入れ等）：関西学院大学人間福祉学部「社会起業学科」、大阪教育大学「ダイバーシティと人権教育プログラム」の学生の受け入れ、大阪府立学校人権教育研究会（府立高校の学校教員）等の受け入れなど当地区の実践をはじめ様々な社会課題についての理解促進をコミュニティ・スペースを拠点に図っています。

イ. 多セクターとの共創の仕組としてインクルーシブコミュニティプロジェクトの立ち上げ

当法人が協働を行ってきた多セクターへ呼びかけ地域関係者、学校関係者、大学関係者（研究者、大学院生・学部生）等によるプロジェクトを発足し多セクターによる社会課題解決のプラットフォームを生み出しました。

（富田地区インクルーシブ・コミュニティ・プロジェクトの構成・参画団体）

セクター	参画団体等
座長	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 志水 宏吉
学識者	大阪大学大学院人間科学研究科 教授 渥美 公秀 大阪大学大学院人間科学研究科 教授 高田 一宏 関西大学文学部 教授 若槻 健 関西大学社会学部 教授 内田 龍史 平安女学院大学短期大学 准教授 新谷 龍太郎 助教 相楽 典子
弁護士	NPO 法人子どもセンターぬっく 代表 森本 志磨子

○地 域	富田まちくらしづくりネットワーク、富寿栄老人会、社会福祉法人つながり、民生委員・児童委員
○大 学	大阪大学、関西大学、平安女学院短期大学 大阪大学人間科学研究科志水宏吉ゼミ、高田一宏ゼミの大学生及び大学院生
○企 業	阪急阪神ホールディングス株式会社
○学校	高槻市立第四中学校・赤大路小学校・富田小学校 ※学校による総合的な学習の時間「いまとみらい科」の協働
○オブザー バー	認定 NPO 法人全国子ども食堂支援センターむすびえ・ヒューファイナンスおおさか・社会福祉法 人大阪ボランティア協会
○事務局	一般社団法人タウンスペース WAKWAK

(プロジェクト会議)

	日時	場所 形式	参加者数	内容
第 1 回	2021 年 6 月 24 日 (木) 18 時半～20 時半	ZOOM	40 名	顔合わせ・自己紹介 コミュニティ再生プロジェクト全体概要共有 富田エリア事業・市域エリア事業の方向性
第 2 回	2021 年 10 月 19 日 (火) 18 時半～20 時半	ZOOM	39 名	プロジェクト新メンバー紹介 プロジェクト進捗状況 (事業中間報告) 意見交流
第 3 回	2022 年 3 月 1 日 (金) 18 時半～20 時半	ZOOM	32 名	プロジェクト新メンバー紹介 プロジェクト報告・総括

				事業に対する評価・意見交流 次年度以降のプロジェクトの方向性
--	--	--	--	-----------------------------------

ウ. まちづくり学習会・視察学習会の開催

i. まちづくり学習会の開催

高槻市による施設型小中一貫校構想による校区内での差別事象の生起を想定し部落問題についての系統的な学習を2週にわたって行いました。

・日時：7月9日（金）18時半～20時半・7月16日（金）18時半～20時半（ZOOM開催）

・テーマ：第1回「部落問題の基礎知識1－差別はなぜ生じるのか？」

第2回「部落問題の基礎知識2－部落差別の告発と現在」

・講師：関西大学社会学部教授 内田 龍史氏

・参加者：のべ65名

※高槻市においては市長の3期目の施策の3大テーマとして富田地区まちづくり基本構想を掲げ、市営住宅の全面建て替え、公的機関の再配置、施設型小中一貫校建設構想がスタートしていました。施設型小中一貫校の構想にあたっては部落問題が現在、結婚差別、土地差別などの利害が絡んだ時に発生する状況を踏まえ校区再編にあたって差別事象が生起されることがあらかじめ想定されていました。その際に学校教職員をはじめ関係者がその問題へに対応できるよう本学習会を実施しました。

ii. 視察学習会の開催

○全国初「公民連携によるまちづくり」大東市北条地区

・日時：12月4日（土）14時～17時

・テーマ：全国初「公民連携によるまちづくり」

- ・内容：①公民連携によるまちづくりガイダンス（講義）

講師：NPO 法人ほうじょう事務局長 中井和真氏

- ②視察（もりねきエリア、住宅エリア、民間事業エリア〈レストラン・アウトドアショップ〉等）

- ・参加者：11名

○「社会福祉法人によるまちづくり」大阪市浅香地区

- ・日時：12月11日（土）14時～17時

- ・テーマ：「社会福祉法人によるまちづくり」

- ・内容：①浅香地区の歴史・まちづくりガイダンス（講義）

講師：社会福祉法人あさか会 常務理事 山本周平氏

- ②視察（社会福祉法人あさか会運営の高齢・障がい・児童施設、コミュニティスペース等）

- ・参加者：15名

エ. 富田地区「未来にわたり住み続けたいまち」アニュアルレポートの作成

2019年度から2021年度のコミュニティ再生プロジェクトのとりくみをアニュアルレポート（4部構成）として作成しました。

○1部：タウンスペース WAKWAK の紹介

2部：コミュニティ再生事業の様子（2019年度～2021年度の取り組み）

3部：地域と学校の協働の取り組みの紹介

4部：理論編（実践報告論文および学識者からの当事業の社会的意義についてのコメント）

○部数：1300部

2) 生きがいと居場所づくり事業

①ボードレスアート事業

ア. ボードレスアート教室「わんだーぼっくす」の開催

日時および受講者数：前期開講：6月～10月（8月は休み）の月2回 11名受講

後期開講：11月～2月の月2回 10名受講

場所：青少年交流センター2Fレッスンルーム

後援：高槻市・市教育員会、高槻市社会福祉協議会、社福つながり・つながり後援会

イ. Takatsuki Art Challenge展への出展

日時：7月1日（木）～4日（日）

場所：高槻市安満遺跡公園

来場者数：780人

主催：高槻市

ウ. ボードレスアート展「わんだーぼっくす」の開催（オンライン配信）

日時：12月5日（日）～25日（金）

内容：わんだーぼっくす受講生作品およびTakatsuki Art Challenge展出展作品

後援：高槻市・市教育員会、高槻市社会福祉協議会、高槻市人権まちづくり協会、社福つながり・つながり後援会、フェスタ・ヒューマンライツ2021実行委員会

3) ひとりぐらし高齢者・障がい者・若者支援事業

①地域支え合い事業

ひとりぐらし高齢者および高齢者世帯への食事や買い物、家事支援、安否確認、心のケア等様々な地域における社会的支援の仕組みづくりを構築することを目的に実行委員会立ち上げと「高齢者のお困りごと」訪問調査を実施しましたが、ボランティアサービス提供者の確保等の課題があり、事業スタートには至っていません。今後事業実施に向け協議を進めます。

②障がい者グループホーム整備事業

ア. グループホーム「コラム富田」につづく女性用グループホームの整備検討

重度障がい者夜間支援型グループホーム整備については、2018年5月に富田地域内で男性7名入居のグループホーム「コラム富田」開設入居となりました。

引き続き女性用グループホーム整備に向け社福つながり後援会家族会ひだまりと共に検討を進めてきました。

4) 青少年・子育て支援事業

① こどもの歩みバックアップ「様々な課題を持つ子どもたちへの学習支援事業」

様々な課題を持つ中学生を対象に、学習支援を行うことで低学力の克服と地域における「貧困の連鎖」を防止する事を目的に2014年8月より学習支援事業を実施しています。今期は、新型コロナ禍の状況に合わせてオンライン（ZOOM）と対面の双方による実施を行いました。

ア. 学習支援教室わんぴーすの通年開催

生活困窮以外に発達障がい等で課題を持つ生徒のニーズも高く、元教員、大学生の講師体制により事業の円滑な実施に努めました。結果、中学3年生は全員希望の進路に進むことができました。

- ・期間：5月～3月の毎週2回 月・水の午後7時～9時（実施回数92回）

※緊急事態宣言等の発令の際には6時～8時開催

- ・場所：富田ふれあい文化センター2F学習室1・交流室1・2

※金事態宣言等の発令の際にはオンライン（ZOOM）と対面の双方で調整のうえ実施

- ・対象：中学生8名（受講生のべ503名） ※卒業した高校生も参加（のべ20名）

- ・参加費：12,000円/月 ※要支援家庭6,000円/月（教材費・保険代含む）

- ・講師体制：教職員経験者5名および大学生・大学院生15名のシフト制で実施

- ・後援：高槻市・高槻市教育委員会・社会福祉法人高槻市社会福祉協議会

イ. 青少年相談事業並びに中学校等との連携

- ・青少年相談事業を通じた親支援も並行して実施

- ・生徒1人1人の特性や課題等について当該中学校との連携会議を概ね2～3か月に1回のペースで開催

ウ. わんぴーす夏期講習（延期）

- ・時期：8月19日（木）・20日（金）・21日（土）いずれも18時～20時

- ・場所：富田ふれあい文化センター

- ・内容：受験勉強

エ. わんぴーす冬期講習

- ・時期：1月10日（月・祝）18時～21時

- ・場所：コミュニティスペース NikoNiko

- ・内容：受験勉強

- ・対象：中学3年生

③「ただいま～と言える子どもたちの居場所をつくる」

ア. 子どもたちの夕刻を支える場「ただいま食堂」

- ・趣旨：毎年、ケア付き食堂をコンセプトに「一緒に食卓を囲むことを通じてつくられた信頼関係をもとに、家族のこと学校のこと、進路のことといった子どもの生活課題への対応を目指す」ことを趣旨に実施してきましたが新型コロナウイルスの影響によりフードパントリーとして実施しました。
- ・期間：5月～3月の毎週1回 水の15時～17時（実施回数47回）
- ・年間配布食数：791食
- ・場所：タウンスペース WAKWAK 事務所
- ・対象：市内全域からつながってきたケース
- ・後援：社会福祉法人高槻市社会福祉協議会

5) CSW（コミュニティソーシャルワーク）事業

①コミュニティソーシャルワーク事業

中学校区でのフォーマル（公的機関）・インフォーマル（民間その他）の連携による支援ネットワークという長年培ってきたまちの財産を活かし、また発展しながら子どもから高齢者の困りごと相談への対応や解決、関係機関へのコーディネートを行いました。

ア. 青少年の支援のための学校教育との連携

学習支援わんぴーす受講生やフードパントリー等の日々のケース対応に当たっては、当該の小、中学校と密に連携を図り、支援を行いました。また、深刻なケースに当たっては、市のSSWやカンガルーの森などの関係機関等とも連携し相談・支援にあたりました。

V. 収益事業、その他事業

法人の社会貢献事業を支えるための持続的かつ安定した財政基盤を強化することを目的として以下の事業を行いました。

1) 富田地区視察の受け入れおよび講師派遣事業

市内外や他府県の行政機関や福祉施設等へ職員が講師として積極的に出向き、包摂型のまちづくりの実践談や人権啓発の推進を図りました。また、富田地区視察の受け入れを積極的行いました。ここで得た報償費(収益)については、法人の安定的な基盤づくりに寄与するとともに法人の社会貢献事業へ循環するべく行っておりますが、2021年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響により講演や視察が減少し収益に打撃を受けました。

①スーパーバイズ等派遣

業務内容	契約期間	依頼者
北芝公営団地集会所を活用した寺子屋とアウトリーチ型学習支援による地域協同システムの構築事業 ・事業運営委員会スーパーバイザー	5～3月	NPO 法人暮らしづくりネットワーク北芝

②研修講師派遣

	事業名	日時	主催者
1	大阪大学教育環境学人権実習Ⅱ	4月16日(金)	大阪大学

2	2年生地域人権学習「あぶねっと」	5月31日(月)	大阪府立阿武野高校
3	授業と集団づくり連続講座	6月5日(土)	大阪府教育文化研究所
4	社会福祉法人つながり法人全体研修	6月13日(日)	社会福祉法人つながり
5	平安女学院大学ゲスト	7月15日	平安女学院大学
6	社会人権教育・啓発専門講座	7月21日(水)	島根県人権啓発推進センター
7	大東市教育フォーラム分科会	8月20日(金)	大東市教育委員会
8	水平社創立100周年記念プレ記念イベント シンポジウム	8月21日(土)	NPO法人ネム21
9	令和3年度人権が尊重された学校づくり推 進事業研究テーマ②「子どもの育成・支援」 に係る共同研究部会	8月24日(火)	大阪府教育センター
10	日本福祉大学フォローアップセッション (実践編)【福岡会場】	9月4日(土)	日本福祉大学
11	日本福祉大学フォローアップセッション (実践編)【大阪会場】	9月11日(土)	日本福祉大学
12	日本福祉大学フォローアップセッション (実践編)【東京会場】	9月18日(土)	日本福祉大学
13	人権啓発・採用担当者養成講座	10月1日(金)	東京人権啓発企業連絡会
14	高槻市教職員組合学習会	10月27日(水)	高槻市教職員組合
15	島根県奥出雲町退職教員互助会総会講演	11月11日(木)	奥出雲町退職教員互助会
16	富田小学校5年生「いまとみらい」地域学習	11月16日(火)	高槻市立富田小学校

17	茨木市西中学校人権学習	12月3日(金)	茨木西中学校
18	高槻支援学校教職員人権研修	12月24日(金)	大阪府立高槻支援学校
19	愛媛県四国中央市人権研修	1月6日(木)	愛媛県四国中央市
20	「子どもの権利」ワーキングチーム研修会	2月20日(日)	遠矢家永子高槻市議会議員後援会 「市民力と政治をつなぐかえ子ネット」
21	島本町教職員人権研修	3月3日(木)	島本町教育委員会
22	常磐会短期大学新入生歓迎プログラム 事前リーダー研修	3月9日(水)	常磐会短期大学
23	全国水平社100年討論集会	3月19日(土)	部落解放同盟大阪府連合会

2) 富田地区の視察、調査の受け入れ

	視察受け入れ先	日時
1	関西学院大学人間福祉学部社会企業学科	6月12日(土)
2	大阪府立学校人権教育研究会	7月2日(金)
3	新温泉町教育委員会	7月15日(木)
4	大阪教育大学ダイバーシティと人権教育プログラム	10月12日(火)
5	部落解放・人権大学解放心学	10月14日(木)
6	部落解放大阪府民共闘会議	11月13日(土)
7	NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝	11月17日(水)
8	ヒューファイナンス休眠預金実行団体研修	12月2日(木)

9	大阪大学「地域がはぐくむ子どもと未来に関する調査」	2月8日（火）
10	岬町人権協会	3月26日（土）

3) 事務受託事業

部落解放同盟高槻富田支部、富田富寿栄老人会、富田地区企業者組合、人権ネットワーク、社会福祉法人つながり後援会・家族会ひだまり、高槻富田生きがい事業団と事務受託契約を行い、計6団体の事務受託について適正に事業を執行致しました。

4) マイノリティと出会う旅 スタディツアーの準備

2022年度以降に開催予定のアメリカ先住民居留区へのスタディツアーの開催に向け、法人事業に携わるスタッフとともにツアー準備会を開催しました。

期間：7月29日（木）～8月13日（金）

行先：アメリカ・サウスダコタ州 ネイティブアメリカン居留区ほか

内容：①マイノリティ アメリカ先住民との出会い

②先住民の伝統的儀式のサポート

参加者：5名

その他：その他のツアー先についても検討するとともに旅行業取扱管理者の取得についても検討しました。